

# つながって

会報(第16号)【地域つながりセンター発行】  
2023年3月  
地域つながりセンター  
〒690-0017 松江市西津田3-5-16  
☎ 0852-67-3088 FAX0852-67-6890  
[E-mail] shimanetsuotogarisama@akehost.net  
[URL] https://www.ctc-shimane.jp

**基本方針**／誰もが“自分らしく生きること”を大切にして、地域の中で医療・介護、そして暮らしをつなぎ「より多くの人安心して住み続けられる地域づくり」をめざします。(諸団体連携による地域づくり活動や事業の推進)






**正会員**／島根県農業協同組合、松江保健生活協同組合、生活協同組合しまね  
6つのおたがいさま(まつえ・やすぎ/いずも/雲南/大田/浜田/益田)  
ひかわ医療生活協同組合、出雲医療生活協同組合(現在11団体)

**オブザーバー**／島根県社会福祉協議会、松江市社会福祉協議会

## 地域つながりセンターで 活動と活動がつながって

コロナ感染の第8波はなんとか治まりつつありますが、皆さん いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍も3年と長引き、感染者や濃厚接触者になることは、とても身近かなことになってしまいました。また、この冬はインフルエンザの流行とも重なり、なかなか気持ちも晴れない日が続いています。希望に満ちた“春”を願いつつ、できることを重ねています……。

現在は下記5つの活動について、当センターを拠点に進めています。

- |   |  |
|---|--|
| <p>① 「おたがいさま」を支援するチーム<br/>(6つのおたがいさま・生協しまね・センター)<br/>2014年～</p>      | <p>② 出雲地域交流会<br/>(出雲の助け合い団体を中心に)<br/>(運営/9団体) 2016年～</p>  |
| <p>③ なないろ食堂<br/>(運営/7団体と個人)<br/>2016年～</p>                           | <p>④ NPOフードバンクしまね あったか元気便<br/>(運営/6団体と個人)<br/>2019年～</p>  |
| <p>⑤ 「子どもの笑顔」応援基金<br/>*生活に困った時の、助け合いシステム<br/>利用料金を基金で応援 2022年～</p>  |  |

地域つながりセンター事務室にある電話には、子ども食堂への参加申込あり、フードバンクのボランティアの申し込みあり、子どもの笑顔応援基金のおたずねあり、県内外の方々からのご連絡あり、対応は多様になります。

そのため、月1回、各事務局担当者どうし、活動の共有を図り、様々な内容の問合せや連絡等に総力戦?!で対応できるようにしています。

また、当センターは、正会員団体や賛助会員の会費、寄付金、助成金等を財源とし、事務局の運営と管理を行います。研修や交流企画を主催したり、他団体との共催もします。

上記5つの活動には、それぞれ運営委員会があり、会計も自立しています。しかし、民間のボランティア団体にとって、事務局設置の負担、事務局員の活動費などは、常に課題の一つです。事務局活動の支援が少しでもできるよう“つながって支えあう良さや強み”を活かしています。

また、センター内で日々行われる「情報交流とおしゃべり」は各現場の工夫やヒントになり、協力しあう関係性も育まれていきます。少し手狭になりつつありますが、来訪者にもスタッフにとっても居心地の良い空間となるよう、心がけています。

今号では、「かけ算」で取り組む活動の様子を紹介します。

(地域つながりセンター 事務局長)



# あったか元気便×おたがいさま×地域つながりセンター 《子どもの笑顔応援基金》

「あったか元気便」ご利用世帯の皆さんへ / 「子どもの笑顔応援基金」利用案内

## 子育てや家事、ちょっと休憩しませんか

子育ても家事も仕事も...がんばりすぎのお母さん・お父さん、たまにはだれかを頼ってみて!



- 有償たすけあいシステムのしくみが、お手伝いします
- 子どもの笑顔応援基金のご利用で、1時間当たり100円の自己負担となります。(詳しくは裏面)

お掃除、ニガテ。何も言わなくて手伝ってくれる人いたらいいなあ〜

引っ越しの時や重いものを移動する時は、いつも大変! そんな時は、だれか手伝ってほしいなあ...

たまには女だちとカフェに行きたーい! 子どもを預かってくれる人いないかな?

冬休みに、子どもの勉強してほしい。私、なかなか見てやれないわ。

～こんな時は 遠慮しないで「子どもの笑顔応援基金」へ～

受付窓口 ☎0852-67-3088

8月から始動している「子どもの笑顔応援基金」の紹介です。

手伝ってほしいこと、困っている時に気軽に誰かに助けてもらいましょう! 「有償助け合い」を利用してくださいね。人と人のつながりでお互いに支えあいましょう。

利用料は1時間100円。(15時間まで)…という内容です。共に考えたり、必要な相談先への繋ぎもします。

特に子どものいる就学援助世帯、非課税世帯にご利用いただきたく、22年度冬の「あったか元気便」送付時には、一斉に左記の案内チラシを入れました。

しかし、大変なはずのお母さんお父さんたちご本人からは、なかなか電話がありません。助け合いのコーディネーターの紹介や、地域の相談員さんやケアマネさんからのお尋ねやつなぎはあります。

「手伝って! 助けて!」という声の出しづらさ、「そんなこと言ってもいいの?」という遠慮、あるいはそれどころではない日々、人に頼るって、誰が来て

「力になれたら、うれしい」そんな人たちが待っています!

## たまには楽をしましょ! 周りの人に頼りましょ!



**\*たすけあいシステム「おたがいさま」であなたと家族を応援**

\*「たすけあい」は、誰かに手伝ってほしい時に有償で支え合うしくみです。困りごとは人それぞれ、手伝ってほしいことをお伝えください。個人情報を守られます。

**\*「子どもの笑顔応援基金」で利用料を応援**

\*たすけあいの料金は通常1時間1,000円+交通費ですが、この基金の利用で15時間までは1時間100円となります。フードバンク利用世帯の方もぜひご利用下さい。困っている時にこそ、まわりのだれかに頼って元気になることを願っています。

受付はいつものフードバンクのスタッフです  
どんな小さなことでも安心してお尋ねください

受付窓口は  高橋と  野津です

**「だれかの役に立てたら」「私でよければ」の気持ちで!**

お掃除や片付け、大好き! 得意! というつわもの、学習支援ならまかせて! という大学生や元先生も、小さなお子さんの子守りがとっても楽しいという人、そして、ちょっと力がいる時に駆けつけてくれる人... 自分のできることで誰かの役に立ちたい... そんな想いを持っている人たちがたくさんいます。お気軽におたすけ下さい。

利用された方からは

PTAの役員会、どうしても夜に出なくては行けなかったのですが、子どもたちを預けて、安心して行けました。

母親を亡くし、学校に行きづらくなっていった娘が、お母さんのような年代の方と遊んだり勉強したり、料理をしたり... 受験勉強も頑張れるようになりました。

子どもたちを預けて、○○コンサートにとってもリフレッシュできました。私自身が休憩したかったです!

くれるだろう...お父さんお母さんのいろんな状況や気持ちを押し測りつつ、電話を待っています。これからも、「地域の誰かが手伝ってくれるよ! 困ったときはおたがいさまだから」と伝えていきます。子育てのくらしにも「ケアマネさん」のように何でも相談でき、他のしくみ、サービスにつないでくださる、その世帯担当の方がいるといいね、と話しています。(保健師さん、社協、各相談窓口等の相談先はもちろんのこと!)

### 寄付しますよ! のうれしい電話が

松江市内の常松さんは、この基金の仕組みを山陰中央新報の記事でご覧になり、さっそく寄付していただきました。

「今まで、こういう活動があること、あまり知りませんでした。これから物価がどんどん上がるし大変だなと思います。少しでも役に立てるなら...。」と、ご連絡いただきました。他の方々からも基金へのご寄付をいただいています。ご協力引き続きお願いします。

(受付) 地域つながりセンターにまずお電話下さい  
☎0852-67-3088 担当/高橋・野津

利用条件: 就学援助世帯、非課税世帯等

基金財源: 正会員会費の3%、賛助会費の5%

フードバンクしまねの助成

保健生協「おたがいさま支えあい基金」の助成

皆さんからの寄付、利用者と団体から\*協力金

基金運営委員会: 現在、7名(利用の可否や相談等)

(正会員団体から4名、有識者2名、事務局長)

\*協力金は、それぞれから頂き、支え合います

助け合い団体から 1時間 50円

利用者から 1時間 100円



## 学校・公民館×あったか元気便×なないろ食堂×大学生 《就学援助世帯のための食事付き寺子屋》

フードバンク利用者世帯からは、子どもの学習への不安が多く出されていました。勉強のことが心配だが、塾に入れるお金はないし、時間もなくてやれない、高校、大丈夫なのだろうか？ というものです。

そこで、あったか元気便では、食料品のお渡し以外の具体的支援として、長期休みに行く「食事付き寺子屋」をこの夏休みから始めました。就学援助世帯のお子さんが安心して勉強したり、みんなとお昼を食べることができると思います。学校×公民館

×あったか元気便が相談して進めています。

学校では就学援助世帯全員に案内チラシを配布。公民館を会場にし、その呼びかけで地域の方々（食生活改善推進員さんや民生児童委員さん）に昼食を作っていただき、大学生が学習を教えます。

ボランティア募集や、食事の相談、当日の進め方などは、なないろ子ども食堂での経験を活かして行います。津田公民館の寺子屋には、島大生が、古志原公民館には、県立大生が学習のボランティアに来てくれます。子どもたちがもっともっと来てくれるとうれしいですね。

**春休み 昼ごはん付き寺子屋**  
(指導・見守りは大学生です。)  
主催：あったか元気便

<p><b>*開催日</b></p> <p>①2023年 3月29日(水) 申し込みが切 3月22日(水)</p> <p>②2023年 4月2日(日) 申し込みが切 3月27日(日)</p> <p><b>*時間</b> 9:30 ~ 12:00</p> <p><small>*新型コロナウイルス感染症の拡大状況により中止する場合があります。</small></p> <p><b>*申込み先</b> ☎ 0852-67-7350 月～金 10:00～16:00 <small>*昼ごはん付き寺子屋申し込みとお伝えください。</small></p> <p>✉ attakagenkibin@gmail.com <small>*申し込みが切日までに保護者の方がメールまたは電話でお申込みください。 (行事保険の手続きのためお返事はさせていただきます。)</small></p> <p><small>*参加される方の氏名、学年、住所、食物アレルギーの有無、保護者の方の緊急連絡先をお知らせください。</small></p>	<p><b>*対象</b> 古志原小学校 1年～6年生 (就学援助世帯)</p> <p><b>*会場</b> 古志原公民館 2号室</p> <p><b>*参加費</b> 100円 (お手伝いをしたら無料)</p> <p><small>ドリルなど勉強するものを持ってきてください。</small></p>
---	---

**\*参加に際しては…**

- ・参加前日から体調を測定し、熱があった場合は参加をとりやめてください。症状がなくともコロナ陽性者と接触があった方は参加をとりやめてください。
- ・マスクの着用をお願いします。水筒にお茶を入れて持ってきてください。
- ・参加中のけがや食中毒には全国社会福祉協議会のボランティア行事保険が対応します。

### 寺子屋の様子を見にいきましたよ

NPO あったか元気便 理事長 春日 邦宣さん

冬休みからスタートした古志原公民館の寺子屋に行ってみました。子どもたちの人数は少なかったのですが、マンツーマンで県立大学生さんと勉強をしていました。地区社協の会長さんも来られ、学生さんとも話ができたし、とても良い雰囲気だとおっしゃっていましたよ。学習の後は、地域の方に作っていただいた昼食を皆で美味しくいただきました。

帰り際の子どもの名残惜しそうな様子に、見守りの大人たちは、皆、感激していました。こうして続けていくうちに、たくさんのお子さんが来てくれるようになるといいですね。他にも、古志原の公民館長さんや県立大の職員さんも気にかけて立ち寄ってくださいました。

## 市×市社協×包括支援センター×ケアマネ協会×助け合い団体 (出雲地域交流会) ⇒ 第3回事例 de 交流会 企画へ

2016年7月から当センターの正会員(出雲の4団体)を中心に他団体にも呼びかけ、主に支え合い活動の交流を進めてきました。これまでの6年間に約60回ほど忌憚のない話し合いを重ねてきました。

数年前から実施している支え合い団体どうしの事例検討交流会もすでに10回以上実施。昨年度から

### 新たな顔の見える関係づくりへ

出雲地域交流会 事務局(助け合いチーム リーダー) 渡部 良子

高齢者の依頼の中には、介護サービスの利用の有無や認知症、家族状況をふまえないと支援者の思いだけではうまくいかないケースも増えてきています。第3回事例 de 交流会の開催にあたり市医療介護連携課・ケアマネ協会・あんしん支援センター・市社協の方に企画段階から参加を得て準備を行っています。たすけあい団体が地域で生き生き活動するために、どんな事を行っているかを知ってもらう事が大事です。今回、事例を通じて各団体が交流する中で互いを知り合い“困った”の声が聞かれた時、気持ちよく支援ができるよう、関係づくりを強めていければと考えます。

は、行政、社協、包括と共に、ケアマネ協会との交流も始まりました。

まだ小さな集まりですが、地域の中で手をつなぐ大切さや多様な立場からの視点に多くの気づきがあります。

もっと多くの団体が気軽に参加できるような集まりもめざしていきたいと思います。



# あったか元気便×地域つながりセンター 《学習講演会お知らせ》

フードバンクしまね学習講演会

## 『死にそうだけど生きてます』

お話 ヒオカ氏



中古1円の参考書で受験勉強

ノンフィクションライター。1995年中国地方の山間過疎地で生まれる。父に障がいがあり、定職につけなかったため、常に貧困の状態の家庭で育つ。中学1年生でいじめに遭い、不登校に。社会的な性格だったが学校に通えなくなる。そのときの心境を綴ったスピーチが大会で選ばれ、言葉の力を知る。その後、SNSを通じていろいろな人と出会う。ライターの師匠となる人物からすすめられ、noteで執筆を開始。貧困家庭で育った体験を描いたnoteが拡散され、ライターとしての活動をスタート。

報告 「アンケートから見えてきたこと」

フードバンクしまねあったか元気便利用者アンケート調査より  
佐藤桃子氏（島根大学人間科学部講師）

参加無料  
どなたでも参加できます

お問合せ・申し込み先  
会場や資料の都合で事前にお申し込みいただくと助かります  
☎0852-67-7350 fax0852-67-7351  
● attakagenkibin@gmail.com

日時：3月25日（土）午後1時30分より  
場所：県民会館3階大会議室

【主催】特定非営利活動法人フードバンクしまねあったか元気便、地域つながりセンター



あったか元気便と当センターの共催です。お申し込みは当センターまで（Tel.0852-67-3088）

### 2022年度賛助団体ご紹介（団体 21 件/個人 55名）

\*賛助金の5%を子どもの笑顔応援基金に充てています

(株)風見・クリップ・松江土建(株)・ニッシングルメビーフ(株)・(株)JA アグリしまね・JAしまね西いわみ地区本部・イトハラ水産(株)・コープかがわ・JAしまね出雲地区本部・はらガス産業(株)・島根県農協電算センター・島根県厚生農業協同組合連合会・間ロウエストロジ(株)・島根中酪(株)・ティーエスアルフレッサ(株)松江支店・(株)カネソ22・マルイ食品(株)西日本・大学前のつ内科クリニック・生協しまね虹の会・島根県生活協同組合連合会

【松江市民共同募金会テーマ募金】募金期間：令和5年1月1日～3月31日

みんなの笑顔 みんなで応援

私たちは、食品提供を通じて子どもたちの暮らしと食卓を応援します

フードバンクしまねあったか元気便は、「就学準備支援」の子どもたちと家族に、最貧困ない長期休校期間の食料品などの年4回お米や食品を提供し「元気」と「安心」を届ける取り組みをすすめています。

2022年3月の献金目標では、松江市内の小・中学校14校の約400世帯、1,400人家族に48トンの食品を届けます。

あったか元気便のメンバーには、お寄せいただいたお米や食品、お菓子などと一緒に、ボランティアさんの心のこもったメッセージが宅配便で届けられます。

みなさまからのご寄付は、全部、宅配費用に立てさせていただきます。

つながって笑顔へまた元気にあふれる暮らしづくり

特定非営利活動法人フードバンクしまね  
あったか元気便

〒690-0017  
松江市東区3-16 しまね駅前ビル2階  
電話 0852-67-7350  
E-mail attakagenkibin@gmail.com

インターネットからもご寄付いただけます。こちらをご覧ください！

赤い羽根共同募金テーマ募金へのご協力をお願いします  
(上記QRコードから寄付できます)

後記  
先日、島根県立大学松江キャンパスの学生、先生、職員の皆さんとの交流の機会を頂きました。学生の皆さんも生活が厳しいと伺い、秋以降フードバンクからお米や食品をお渡ししています。

私たちからは、フードバンク活動のお知らせに加え、フードバンク利用世帯の子どもたちとの「楽しい活動」をぜひ学生さんたちに企画してほしいとお願いしました。気軽に参加できる楽しみは、利用世帯にとって必要な企画です。また、先生のご指導で、学生さんたちが、地域の皆さんとつながり、子どもの学習や育ちのお手伝いをしている様子もいろいろお聞きしました。どの方々も目がキラキラして見えたのは私だけではなかった…と思います。

そういえば、IT企業の方が「オンラインではカメラ目線ではなく画面目線なのでお互いの目線は絶対に合わないんですよ!」と。この3年間、オンライン会議で感じていた違和感の謎が解けたよう…お互いの目線が合うことって、大切なんですね。会って話すことが一番だわ!と、納得しました。  
(野津)